

学校教育目標

○よく考え、表現する子 ○豊かな心をもつ子 ○たくましく鍛える子 ○互いのよさを認め合う子

道徳教育の充実を柱として「豊かな心をもつ子」を重点目標とし、充実した教育活動を展開する中で、よりよい人間関係の確立に努める。

令和5年度学校経営方針(学力向上に関わる要点)

自ら未来を切り開き、次代を担う児童の育成を目指すために、「知・徳・体」のバランスのとれた教育活動を推進するとともに、多様性を認め合える資質や能力を育成する。

指導の重点(各教科)

- ・学力向上の観点から学びの連続性を重視し、児童の実態に合わせてつづき学習評価に基づいたねらいを明確にした授業を行う。これにより指導と評価の一体化を図り、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。
- ・任期付短時間勤務教員等を活用して、算数科では3～6年生での少人数指導による習熟度別学習を展開し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。さらに、エデュケーションアシスタントや支援員、スクールサポートスタッフ等を有効活用し、個に応じたきめ細かな指導体制を確立する。
- ・教科の単元等の内容に応じた多様な学習活動を設定して「個別最適な学びと協働的な学びの実現」の視点から授業改善を行い、児童の学習に対する意欲を高める。一人1台端末を効果的に活用することで、それぞれの児童がもつ特性や課題に対応した学習活動を行い、更に思考を広げ深め、表現・技能の力を付けさせる。

指導の重点(総合的な学習の時間)

- ・地域の自然や環境・文化・人材等を活用し、主体的に探究する問題解決学習を通して自ら進んで学ぶ力を育てるとともに、地域の様々な良さを味わい、地域に貢献する意識を育てる。
- ・「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究プロセスを取り入れた授業展開を行い、問題解決能力を養う。プログラミング教育を取り入れ、論理的な思考力を養う。

授業改善に向けた具体的方策

基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
学びの連続性を重視し、児童の実態に配慮し学習評価に基づいたねらいを明確にした授業を行う。指導と評価の一体化を図りつつ、算数科において任短教員を活用し3～6学年で少人数による習熟度学習を展開し基礎的・基本的な知識・技能を習得させる指導を行う。	児童が課題を見出し、探究する学習過程を設定し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。系統的な指導を図るとともに、言語活動の充実を図り、思考の深まりや変容に気付かせる指導を行う。	区学力調査の結果分析から、学習評価に基づいた指導の工夫・改善を行う。また、指導と評価を一体として捉え、発達段階に応じたAIドリルを活用した繰り返し学習やノート指導を工夫する指導を行う。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
ICT教育推進リーダーが中心となり高速大容量ネットワーク環境を用いた学習活動の推進、AIドリルの活用、教科の単元等の内容に応じた多様な学習活動を設定して「個別最適な学びと協働的な学びの実現」の視点から授業改善を行う。	「ユニバーサルデザインの視点に基づく指導の工夫」や「学習環境の整備」、「合理的配慮」により、発達の段階や個の実態に応じた指導の工夫等、共通実践を行い、個別支援が必要な児童に対する個に応じた指導・支援を目指す。	個人面談・保護者会等を活用して双方向の連携を築くことに努める。PTAとの連携、地域の教育関係者への理解、個々の児童の実態に合わせた支援を実現する。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【小学校】

国語科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるように、反復学習を行い、基礎基本の定着を図る。 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことができるように、学習に対する目的意識や相手意識を明確に提示する。 国語科の学習を他教科等の学習や学校の教育活動全体と関連させるだけでなく、児童を取り巻く言語環境の整備や読書活動を積極的に行う。

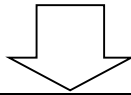
現状分析

区学力調査の結果分析

- 教科全体に関しては5学年中4学年で達成率が7割を超えており、平均的な学力があると分かる。
- 領域別では、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」に関しては目標値よりやや高いが、「書くこと」に関しては目標値よりやや下回っている。言語事項に関しては、どの事項も目標値より高い。
- 基礎問題は平均より高いが活用問題はちょうど目標値であり、基礎基本の定着は効果が現れてきている。

教科指導上の課題

- 「書くこと」の領域に関しては、教師が、学習のゴールとなる文例を提示することを通して、文章の構成や文章を記述するために必要な語彙を指導する必要がある。
- 教師が、国語科だけではなく、他教科や日常的な活動として「書くこと」の活動を取り入れ、児童に考えを記述する習慣を付けさせる必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	1年 ・児童がワークシートの形態(行かマス目)を選んで取り組む。 ・児童同士が考えを伝え合う活動を取り入れ、学習結果を共有し合い、クラス全体の学びを深める。 2年 ・児童がICTや付箋を活用し、思考の過程を整理する。 ・児童同士が考えを伝え合う活動を取り入れ、学習結果を共有し合い、クラス全体の学びを深める。	1年 ・既習した平仮名・カタカナを使って文章を作ることができるようにする。 ・自分の考えをクラスの中で伝えること・相手の考えを聞くことができるようにする。 2年 ・新出漢字の学習の際に短文作りも行い、文中でどのように活用されているか理解できるようにする。 ・ICTを活用し、音読の様子や発表の練習など、自ら振り返ることができるようにする。
3・4年生	3年 ・言語活動において、他教科との関連をはかり、児童が自ら課題を選んで表現する。 ・学習課題によってグルーピングし、協働して解決する時間を作る。 4年 ・学習課題に対し、記述方法(ICTまたは自分で記述)を児童自身で選択、決定する。 ・学習課題によってグルーピングし、協働して解決する時間を作る。(個別化・探究化・協働化)	3年 ・文章の中で既習の漢字を使うようにしたり、似ている漢字を仲間分けしながら覚えられるようにしたりする。 ・学びを振り返ったり、広げたりするツールとしてICTを活用する。 4年 ・学習課題を立てる前に、教材の大体の内容をつかむ時間や学習課題を解く中で、言葉や表現に着目する時間を設ける。(指導計画の工夫) ・学び方の幅を広げ思考を支えるツールとして、また考えを共有するツールとしてICTを活用する。
5・6年生	5年 ・学習課題に対し、どのように学ぶのか、自分の学習計画をたてる。 ・学習課題によってグルーピングし、協働して解決する時間を作り、発表方法も話し合って決める。 6年 ・学習課題に対し、どのように学ぶのか、自分で学習計画を立て、表現方法を自ら決めるようにさせる。 ・課題を解決するための方法、相手や目的、意図に応じた発信(書く・話す)内容や方法などについて、友達と妥当性について検討し合う場を設定する。	5年 ・十分な語彙力と論理的思考力を育てるために、読書、言語に関する学習、正しい文章や会話に触れる場面等を意識的に設定したり、繰り返し学習する機会を作ったりする。 6年 ・表現や思考のために十分な語彙力と論理性を育てるために、読書、言語に関する学習、正しい文章や会話に触れる場面等を意識的に設定し、児童の言語環境を整える。

(2) 社会科

【小学校】

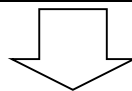
社会科における指導の重点

- ・問題解決的な学習，特に単元の導入段階での学習問題設定と学習計画に丁寧に取り組む。
- ・「調べること(情報)」と「考え理解すること(知識)」を明確にし，知識・技能を確実に習得させる。
- ・学習内容の理解だけでなく社会的な見方・考え方の育成を意識して，問題解決的な学習が進められるようにする。
- ・地域社会の方々との対話的・協働的な学びを意図的に取り入れたたり，選択・判断やまとめの学習活動を工夫したりして，学習した知識が社会生活の中で生きて働くものになるようにする。

現状分析

教科指導上の課題

- 3年
- ・児童一人ひとりが学習問題を設定できるよう，課題の提示の仕方を工夫する必要がある。
 - ・児童の社会生活の経験を生かしつつ，社会的事象に対する認識を活用したり広げたりする活動の場を設定する必要がある。
- 4年
- ・児童へ社会的事象に関心をもたせ，問題についての理解を深めさせるための調べ学習の提示の仕方を工夫する必要がある。
 - ・児童の社会生活の経験を生かしつつ，社会的事象に対する認識を活用したり広げたりする活動の場を設定する必要がある。
- 5年
- ・児童が地図帳や資料集等を使って的確に調べる技能を高めるための指導方法を工夫する必要がある。
 - ・学習内容と社会生活とを結び付けて，学習したことについて自分事として考察し，まとめる力を向上させる活動を工夫する必要がある。
- 6年
- ・社会的事象に関心はもつが，解決すべき問題を見いだしたり，見通しをもって学習を調整したりする力を向上させる指導の工夫が必要である。
 - ・児童が獲得した学習内容の知識・理解と，社会生活との繋がりについて進んで考えられる活動方法を提供する指導の工夫が必要である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	3年 ・単元のはじめには，児童からの疑問や課題意識をもたせるような発問を工夫し，話し合いながら学習問題を設定する経験を積ませる。 ・調べたりまとめたりしたことをもとに，伝え合う場を設定し，教師がそれを価値付け，自らの学びをさらに広げることができるようにする。 4年 ・調べ学習などで学んで分かったことをコラボノートで発表し，みんなで振り返りを行う。 ・コラボノートでウェビングマップなどを活用して思考を深め，発表の資料を作成する。	3年 ・見学や資料の読み取りの視点や方法を丁寧に指導することをくり返し，「調べる」技能を定着させる。 ・教材や資料を工夫し，児童が地域社会を身近に感じて学習を進められるようにする。 4年 ・調べることを考えて見いだすことを教師が明確にしておき，情報収集の仕方や考え方を丁寧に指導することで，「調べる」技能の定着を図る。 ・各時間で児童に捉えさせたい事実を明確にし，それに向かって社会的な見方・考え方を活用して思考を深める学習活動をくり返す。
5・6年生	5年 ・単元のまとめの段階で，グループで話し合う，個人で作業したものを評価し合うなど協働学習を活用させ，学習内容の定着を図ったり，社会生活との繋がりについて考えたりできるようにする。 6年 ・特に「調べる」過程においては，個，ペア，グループなどの学習形態を児童自身が選択できるようにする。まとめ段階では，協働学習を活用した後，各自に思考の整理をさせる。	5年 ・資料の読み取り方や必要な資料の選択の仕方について，丁寧に指導する。 6年 ・社会的事象の見方・考え方の育成を意識した授業づくりを行い，児童一人ひとりが既習の視点を活用しながら学習できるようにする。 ・各時間で児童に習得させたい内容を明確にし，学習の終わりに各自でまとめをさせる。

(3) 算数科

【小学校】

算数科における指導の重点

- ・主体的・対話的で深い学びが実現できるように、学習環境を整備したり、資料やICTを活用したりして学びへの関心をもたせる。見通しをもった学習計画をたて、児童の学ぶ意欲や課題を解決する能力、思考力・判断力・表現力等の更なる向上を図る。
- ・算数科は一人ひとりの能力・特性に応じた少人数習熟度別グループを編成し、指導計画に基づいて個に応じた指導を行う。また基礎的な学力を高めるために、効果的に課題を設定し、任期付短時間勤務職員等による学習支援等を含め、個別の学習の定着と向上を図る。さらに、支援員、エデュケーションアシスタントを活用する。
- ・日常の授業以外に放課後学習教室や夏季補充学習教室、個に応じた学習能力の向上や基礎的な学力の定着を図る。
- ・学習が児童に確実に身に付き、日常生活で役に立つ知恵となるようにするため、算数科の基礎的・基本的な内容を厳選して指導し、学習評価に基づいた指導を行い、繰り返し取り組ませる。
- ・言語活動の充実を図り、考えの交流や毎時間自分の言葉でまとめさせることを通して思考の深まりや変容に気づかせる。

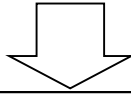
現状分析

区学力調査の結果分析

第2～6学年の教科概要の集計結果で達成率を確認すると、2～5年生は達成率が区標準の7割を上回る結果となった。6年生は達成率が7割よりやや低い結果となった。本校の平均値が全国平均を上回ったカテゴリーはデータの活用(6年生)、図形と思考・判断・表現と記述(5年生)、教科全体・基礎と数と計算・図形、データの活用、知識・技能、思考・判断・表現、短答(4年生)、思考・判断・表現(3年生)、全国平均と同数値であった知識・技能以外の全てのカテゴリー(2年生)であり、良い結果となった。課題となる可能性があるカテゴリーとしては学年別に、活用・変化と関係・主体性(6年生)、データの活用(5年生)、活用・測定・主体性(4年生)、測定・データの活用(3年生)であった。

教科指導上の課題

学年別に、活用・変化と関係・主体性(6年生)、データの活用(5年生)、活用・測定・主体性(4年生)、測定・データの活用(3年生)が課題として考えられ、これらの課題を中心に授業改善行っていく。児童が主体的かつ個別最適な学びを、自己調整しながら進めることを目指し、ICT機器を活用し既習事項の定着と習熟を図る指導を実践していくことが課題。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組むための必然性を設定し、児童に十分に思考させ、ICT機器・アプリを活用し児童同士で思考の交流・発表する機会を増やすことで、協働的な学びの指導を進める。 ・ICT機器の活用(iPad, デジタル教科書など)することで、児童一人ひとりのつまずきを教師と児童が把握し、個別最適な学びを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組むための必然性を設定し、児童が学びへの興味・関心を高めるような指導を行う。 ・数をまとまりでとらえて計算できるよう、ブロックでの操作を十分にを行い、計算カード活用し10までの数の合成、かけ算九九は念頭で言えるようにして習熟を図る。 ・既習事項の定着と児童一人ひとりのつまずきを確実に定着させるために、東京ベーシックドリルやデジタルドリルを活用する。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組むための必然性を設定し、児童に十分に思考させ、ICT機器・アプリを活用し児童同士で思考の交流・発表する機会を増やすことで、協働的な学びの指導を進める。 ・ICT機器の活用(iPad, デジタル教科書など)することで、児童一人ひとりのつまずきを教師と児童が把握し、個別最適な学びを進める。 ・個別最適な学びの実現の手立ての一つとして任期付短時間勤務職員による個別指導の継続、年間を通した放課後補充教室による補充学習の継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組むための必然性を設定し、児童が学びへの興味・関心を高めるような指導を行う。 ・式や答えの根拠、その過程を必ずノートに書かせる。その際、図や数直線、式、文章等の表現方法を提示し、自分の考えをより表現しやすいものを選ぶように指導する。 ・既習事項の定着と児童一人ひとりのつまずきを確実に定着させるために、東京ベーシックドリルやデジタルドリルを活用する。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組むための必然性を設定し、児童に十分に思考させ、ICT機器・アプリを活用し児童同士で思考の交流・発表する機会を増やすことで、協働的な学びの指導を進める。 ・ICT機器の活用(iPad, デジタル教科書など)することで、児童一人ひとりのつまずきを教師と児童が把握し、個別最適な学びを進める。 ・個別最適な学びの実現の手立ての一つとして任期付短時間勤務職員による個別指導の継続、年間を通した放課後補充教室による補充学習の継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組むための必然性を設定し、児童が学びへの興味・関心を高めるような指導を行う。 ・学習計画を立てさせ、図、表、絵などの活用を想起させたいうえで、自力解決に取り組ませる。まとめの場面では、知識を身に付けさせることだけでなく、考え方やその過程に重点をおき、多面的、多角的な考えができるような展開を目指す。 ・既習事項の定着と児童一人ひとりのつまずきを確実に定着させるために、東京ベーシックドリルやデジタルドリルを活用する。

令和5年度授業改善プラン

(4) 理科

【小学校】

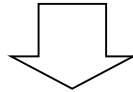
理科における指導の重点

- ・問題解決学習の一連の流れを重視して授業を行うことで、問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を養う。
- ・既習事項に関連する単元は復習を行ったり、スクールサポートスタッフ等に実験の補助に入ってもらったりしながら、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。
- ・学習環境が十分に整えられない単元もあるので、タブレット端末やICTを十分に活用しながら課題に対する学習活動を行う。

現状分析

教科指導上の課題

- 3年
- ・植物や生物の学習をする環境が整わない部分があり、生物分野の学習は、写真や動画を活用して指導する必要がある。
 - ・理科の学習のスタートに際し、進め方(学習過程)を意識させる、また、機器・器具を十分に使わせたり、理科で使う用語を丁寧に確認したりして指導を進める必要がある。
- 4年
- ・校舎の構造上、生き物の観察が難しいので、四季の移り変わりによる生き物の変化は、写真や動画を使って指導する必要がある。
 - ・児童が根拠のある予想や仮説を立てるようにするため、既習事項の確認を丁寧に行ったり、共通の体験活動を充実させたりする必要がある。
- 5年
- ・児童の予想や仮説を基に、解決の方法を発想できる機会を増やす必要がある。
 - ・実験結果をもとに自分の考えや授業の振り返りをまとめるだけでなく、結果を受けて考えられることを書く時間を確保する必要がある。
- 6年
- ・生活経験と結びつける手立てを用意する必要がある。
 - ・実験結果をもとに導き出した自分の考えや結論など、理解した事項をアウトプットする指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、学習内容を補う動画などを見て、理解を深められるようにする。また、共通点・差異点を根拠に話し合い、分類するなどの活動を設定し、友達と問題解決することで、知識の定着を図る。 <p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して、学習内容を補う動画などを見て、理解を深められるようにする。また、問題に対する予想を、既習内容や生活経験を基に考えさせ、話し合わせることで、根拠を明確にさせる。 	<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器・器具を十分に使わせたり、折に触れて確認したり、理科で使う用語を意識的に使う場を設定し、定着させる。 <p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器・器具を十分に使わせたり、理科で使う用語を意識的に使う場を設定したりして、定着させる。 ・既習内容を折りに触れて確認し、知識として定着させる。
5・6年生	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、日常で起こる現象や生活に生かされている例を動画などで紹介したり、学習内容を振り返り、疑問に感じたことをタブレットで調べたりする活動を多く設定し、自然の事物・現象に触れる機会を増やし、単元の導入に生かす。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、日常で起こる現象や生活に生かされている例を動画などで確認をしたり、自分でタブレットで調べたりする活動を多く設定することで、知識のさらなる定着に生かす。 	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の見方や考え方を働かせられるように、既習事項や観察・実験の結果から一人ひとりが考察する時間や考えたことを共有する時間を十分に確保していく。 ・実験・観察の後のまとめを確実にに行い、必要な語彙に関しては、復唱したり色つきで書いたりして定着を図る。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で学んだ学習をくり返し次時でも活用する。 ・前時で身についた知識や技能を次時の導入に取り入れることで、予想や仮説を考えやすくする。

(5) 生活科

【小学校】

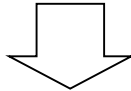
生活科における指導の重点

- ・身近な人々や社会及び自然を自分との関わりで捉え、活動や体験の過程において気付いたことや考えたことを表現する力を付ける。
- ・教師が表現方法を提示したり、観点を確認したり学級全体で共有したりしながら考えて表現する力を付ける。

現状分析

教科指導上の課題

- ・気付いたことを言語化して、カードなどに記入の仕方を指導する必要がある。
- ・考えたことや気が付いたことの発表の仕方、聴き方を指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">・観察するときには、「見る」「聞く」「触る」「かぐ」など視点を持ち、観察カードに記録することを指導する。・タブレットを使って観察するものを写真に撮り、細かいところまで見たり感じたりできるようにする。・つくった作品をICT機器を活用し、内容や情報を共有することで、児童それぞれの考えを交流するという活動を行う。	<ul style="list-style-type: none">・関心をもって植物や動物と触れ合い、継続して活動することを通して成長や変化に気付かせるようにする。・自分のことを知り、更に周囲(家族、地域)の人にも目を向け、関わりに気付かせる。

(6) 音楽科

【小学校】

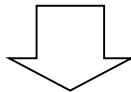
音楽科における指導の重点

- ・児童一人ひとりの個性や興味・関心をいかした楽しい音楽活動を展開する。
- ・表現や鑑賞の活動において、友達と気持ちを合わせて演奏したり、いろいろな感じ方や考え方に触れたり豊かな情操を培っていく。

現状分析

教科指導上の課題

- ・昨年度までのコロナ感染症対策の影響で、呼吸や発音に気を付けて歌う技能や楽器の音色を大事にした演奏の仕方などが課題と感じられる。
- ・どの学年も「聴く力」「聴きながら合わせる力」の指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">・「個別最適な学び」として、技能を身に付けさせる点では、それぞれの特性や進度に応じて課題を調整したり、編曲したりなど行い達成感を味わわせ、興味・関心をもたせるようにする。・「協働的な学び」として、音楽づくりの領域でのグループ活動を充実させ共につくっていく楽しさを体験させる。	<ul style="list-style-type: none">・歌唱や器楽では表現することが好きという気持ちを大事にしつつ、運指や奏法、発音や呼吸についてなどスモールステップで定着を図っていく。・学習カードの振り返りを継続し行うことで自己の学びを実感できるようにする。・デジタル教科書や書画カメラによる運指の確認など視覚的に学べる工夫を行っていく。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none">・「個別最適な学び」として、リコーダーの学習では動画の配信やコメント入りの楽譜を個に提供することで、必要に応じた指導を行っていく。・「協働的な学び」としてはグループアンサンブルなどで、共通の思いや感じ方の違いなどを交流し演奏に生かす活動を積極的に取り入れる。	<ul style="list-style-type: none">・児童の興味・関心を生かしながら低学年からの系統的な学びを意識し、基礎基本を定着させる教材の開発を行っていく。・Google classroom による課題の配信や確認など行っていく。・聴き取った音、鑑賞教材で学んだことと表現の一体化を図る。・担任と連携し、学習規律についても身に付けさせていく。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・「個別最適な学び」として、音楽づくりの領域でタブレット(ガレージバンド)を使った音楽づくりなど行い、個の学習(音楽の世界)を広げたり深めたりできるようにする。・「協働的な学び」としてどのように演奏したいかなどグループの対話を生かした活動や言語だけではなく、音での対話があることを伝え学習を深めていく。	<ul style="list-style-type: none">・表現の学習では、その時間の振り返りを行うことで、自らの課題を見付け、その解決に向かうような授業を行う。・様々な音楽経験や鑑賞を行い、児童の発想につなげる。技能の習得にとらわれず、感性を働かせるような学習を心掛け進めていく。・鑑賞と表現・音楽づくりの関連をいかし、児童の気づきを大事にした展開で、主体的な学習をめざす。

(7) 図画工作科

【小学校】

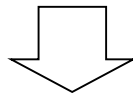
図画工作科における指導の重点

- ・形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりできる力を培っていく。
- ・つくりだす喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる授業の展開をする。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ICT機器を有効に活用しながら、材料の特性や、用具の正しい使い方についての理解を十分に図り、発想を深められるように指導していく必要がある。
- ・コロナ感染症対策の影響で、これまで制限されてきた題材や活動もあった。友達との関わりの中で、様々な見方や感じ方を深められる題材やグループ活動を充実させることが課題であると感じられる。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	1年 ・材料用具の使い方は、ICT機器を活用して、視覚的に指導する。個別に対応する。また、児童同士に学び合いの機会を適時設けていく。 ・鑑賞の時間を随時設ける。自分の作品や友だちの作品について、話ができるようにする。 2年 ・ICT機器を活用して、視覚的に指導する。個別に対応する。また、児童同士に学び合いの機会を適時設けていく。 ・鑑賞の時間を随時設ける。自分の作品や友だちの作品について、互いにいいところを伝え合う。	1年 ・進んで造形活動に取り組むために、楽しめるような題材を選ぶなど材料の工夫を図る。 ・自分や友だちの作品を見合うことで、興味関心を広げ次の作品作りや鑑賞につなげていく。 2年 ・進んで造形活動に取り組むために、楽しめるような題材を選ぶなど材料の工夫を図る。 ・自分や友だちの作品を見合うことで、興味関心を広げ、気づいたことを共有し合い、次の作品作りや鑑賞につなげていく。
3・4年生	3年 ・材料用具の使い方は、ICT機器を活用して、視覚的に指導し、安全で正しい用具の扱い方を取得させる。 ・鑑賞の時間を随時設ける。作品から、自分の見方や感じ方を広げる。 4年 ・ICT機器を活用して、視覚的に指導し、安全で正しい用具の扱い方を習得させる。 ・鑑賞の時間を随時設ける。作品から、自分の見方や感じ方を広げ、感じたり考えたことを互いに伝え合う。	3年 ・材料の特性についての理解を十分に図り、用具の正しい使い方を習得できるように、題材の工夫を図る。 ・身近にある作品から、作品のよさに気づき、次の作品作りや鑑賞につなげていく。 4年 ・材料の特性についての理解を十分に図り、用具の正しい使い方を習得できるように、題材の工夫を図る。 ・身近にある作品から、作品のよさに気づき、感じたことを共有し合い、次の作品作りや鑑賞につなげていく。
5・6年生	5年 ・ICT機器を活用しながら、視覚的に指導し、適時個別に支援する。発展教材を活用し、意欲に応える発展的な指導を行う。 ・鑑賞の時間を随時設ける。作品から自分の見方や感じ方を深められるようにする。 6年 ・ICT機器を活用しながら、視覚的に指導し、適時個別に支援する。発展教材を活用し、意欲に応える発展的な指導を行う。 ・鑑賞の時間を随時設ける。作品から自分の見方や感じ方を深め、話し合うことができる。	5年 ・進んで造形活動に取り組み、新しい表現方法や今までに習得した技法や知識を積極的に作品づくりに生かせるように、題材や材料選びに工夫を図る。 ・親しみのある作品などから、作品のよさに気づき、次の作品作りや鑑賞につなげていく。 6年 ・進んで造形活動に取り組み、新しい表現方法や今までに習得した技法や知識を積極的に作品づくりに生かせるように、題材や材料選びに工夫を図る。 ・親しみのある作品などから、作品のよさに気づき、感じたことを共有し合い、次の作品作りや鑑賞につなげていく。

(8) 家庭科

【小学校】

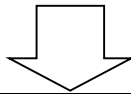
家庭科における指導の重点

- ・日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などへの理解やそれらに係る技能を一人ひとりに習得させる。
- ・家族の一員として、生活の中での課題を見付け、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返ったりすることで、よりよい家庭生活の実現を図る。

現状分析

教科指導上の課題

- ・日常的な経験の乏しさや手先の不器用さなどにより、技能面での個人差が大きい。
- ・活動が優先されたり、知識及び技能の伝達に偏ったりしまいがちである。問題解決的な学習を取り入れ、授業展開を工夫する必要がある。
- ・学級内の人数が多く、作業スペースや器具の不足、個別対応の難しさなどハード面の課題がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・一人1台端末を用いて技能動画をくり返し見られるよう提示し、個人でも練習できるような環境設定を行う。・実習等の児童の活動時間を多く設定し、体験することで、生活経験による個人差を小さくしていく。・実習では、技能に応じてグループ分けをし、教え合いの機会を設けたり、支援員等を活用したりする。	<ul style="list-style-type: none">・学校で学習したことを実生活でも実践し、技能の習熟がで きるよう、土曜授業公開等で家庭との連携を図るよう工夫す る。・身に付けさせたい技能だけでなく、教科として育てたい資 質・能力を意識し、各単元の導入場面では生活と結び付け て考える時間を確保し、問題点や改善点を見付け、よりよい 家庭生活の実現へ向かう授業を展開していく。

(9) 体育科

【小学校】

体育科における指導の重点

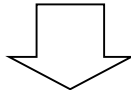
昨年度は、コロナ禍や校舎移転に伴い、運動する場や時間の確保が難しい現状があった。今年度は、4月から校庭が使用でき、また、コロナの影響もあまりなく授業が実践できるので、「運動量の確保」、「多様な運動経験の充実」に重点を置く。

現状分析

教科指導上の課題

・体育の授業では、教科書がないため、授業を実践する側の教員の得意・不得意がある。「運動量の確保」を図るためには、「説明の時間を短くする」「効率よく場を準備する」などの教師側の授業マネジメント力の向上が必要である。校内で2年間体育科の研究を通して培ってきた体育学習の指導方法を、OJT等で再度確認し、実践していく。

・「多様な運動経験の充実」を図るためには、学習内容の系統性と、児童がこれまでに経験してきた学習内容や運動技能の実態を十分に考慮した学習計画を立てる必要がある。担当学年の指導内容を理解するだけでなく、6年間の学習内容の系統性や、前の学年・次の学年のつながりを考えた学習計画を立て、実践していく。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> 遊び方やよい動きについて共有できるよう、運動遊びの様子を撮影し、児童が授業以外の場でも動画を見られるようにする。 単元毎に様々な運動遊びの場を設け、自分が遊びたい場所を選択できるようにする。 <p>以上のように、一人1台端末を活用し、遊び方やよい動きを共有し、また、自分で遊びの場を選択できるようにすることで、児童一人ひとりが自己の思いや願いをもち、課題を見付け、解決のために活動に取り組むことができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動遊びの楽しさに触れられるように、運動の特性を生かした授業を実践し、基本的な動きを身に付けさせる。 各種の運動遊びで工夫したことを、友達やクラス全体に伝える場を設けることで、考えたことを他者に伝える力を養う。 単元始まりのオリエンテーションにて、毎回「きまり」や「安全面」について児童と合意形成を図り、きまりを守り友達と仲良く運動をしたり、安全に活動したりする態度を養う。
3・4年生	<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人1台端末を用いて自分の動きを撮影し、振り返りができるようにする。 チームで作戦を考えたり、お互いアドバイスをし合ったりする時間を設けるようにする。 仲間のよい動きについて共有する時間を設けるようにする。 <p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや特性に触れるような体育の授業を目指す。課題に応じた場の設定をすることで、技のコツをつかみやすくなり、基本の技を身に付けられるようにする。 自分の課題を見付けられるように、一人1台端末を活用し、グループごとに動画撮影やアドバイスをし合う時間を設定する。 	<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> 各運動のポイントとなることを共有し、繰り返し練習することやICTを活用して自分の動きを振り返ることを通して、基本的な動きができるようにする。 <p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備運動の後に補助運動を入れ、動き方や感覚を身に付けられるようにする。また、基本の動きからの発展技、遊びの中で生かせるような動きの紹介をする。 学習カードを使い、学習したことをフィードバックできるようにし、児童の課題を見付けたり、手立てを考えたりすることができるようにする。
5・6年生	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> 各単元において個々の課題に応じた指導、支援、配慮を行うため、それぞれの運動の技能分析や身に付けさせたい力を明確にしたうえで一人ひとりの実態把握をする。 児童一人ひとりに適切な課題をもたせる。 同じ課題について話し合ったり、互いに高め合う活動をしたりするために、学級全体や各グループの共通課題を明確にさせる。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりが自分の学習を調整しながら、自分に合った課題に取り組むことができるよう、児童と共に学習計画を立て、皆で合意形成を図りながら活動内容を決める。 児童一人ひとりに適切な課題をもたせるよう、児童が考えている課題と実際の課題とを比較しながら、そのずれを調整していく。 一人ひとりの異なった課題に対して、教師や仲間が効果的に支援できるツール(主にICT機器の活用)を与え、協働的に学んでいける環境を整える。 	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの運動の特性や技能について指導者がしっかりと分析した上で、身に付けさせたい力やポイントを明確にしてから指導に当たる。 児童の実態に応じた場や用具、指導の工夫を行う。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> 各運動がもつ楽しさの分析し、その運動がもつ楽しさを存分に味わうことができる教材を提示する。そして、「できるようにになりたい」と主体的に学習に取り組もうとする態度を育てる。 動きや技能の定着のための場を十分に確保する。 マネジメント場面を極力短くし、運動量の確保に努める。 課題発見・課題解決のためのツールを必要に応じて与え、学びの質の向上に努める。また、児童の技能差などを考慮に入れたグループピングを教師が考えることで、質の高い教え合いが出来るようにする。

令和5年度授業改善プラン

(10) 外国語活動・外国語科

【小学校】

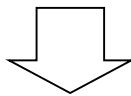
外国語活動・外国語科における指導の重点

外国語活動においては、外国語や外国の文化や伝統の理解を深める、日本と外国との生活・習慣・行事等の違いを知り、多様なものの見方や考え方に気付かせる指導を行う。外国語においては、学級担任とALTと協働した授業展開を行うことで、児童がALTのネイティブな発音や振る舞い方に触れながら外国語の理解をさらに深められるように指導を行う。

現状分析

教科指導上の課題

各単元において終末での目指す児童の姿を具体的に示すことで、児童一人ひとりが自己のめあてを明確にもたるとなるような指導を行う必要がある。また、目的・場面・状況を意識した必然性のある活動を設定することで、児童が自己の思いや考え、情報を進んで伝え合い、学び合うことができる協働的な学びを推進する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	<ul style="list-style-type: none">各単元のゴールを提示し、ICT機器やデジタル教材などを活用し、児童個々の興味関心に合った英語表現や作品作りなどの活動を行う。ペア活動、グループ活動などの活動を取り入れ、児童の協働的な学びを推進する。	<ul style="list-style-type: none">外国語の表現に慣れ親しむために、ゲームや活動の中で単語や文型を楽しみながら繰り返し発音したり、聞いたりする活動を設定する。
外国語科	<ul style="list-style-type: none">単元の導入部分の活動を工夫し、児童一人ひとりが単元のめあてと学習の見通しを意識して学習に取り組むことを習慣化させる。友達やALTとの会話、ゲーム、発表など多様な活動を通して、よりよい表現を主体的に追究できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">単語や文型などをくり返し発音をしたり、学習した単語や文を用いて様々な場面を想定して会話をしたりする活動を設定する。ゲームや発表など多様な活動を工夫し、伝えることの楽しさを味わえる機会を多く設定する。

(11) 特別の教科 道徳

【小学校】

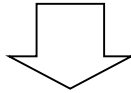
道徳科における指導の重点

- ・道徳科の年間指導計画に基づき、道徳科の授業の質的向上を図りながら、年間指導計画を工夫改善する。
- ・道徳的価値の自覚及び自己の生き方について思いや考えをもち、児童が自己を開示したり受容したりできる授業展開を工夫する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・授業の質的向上を図るために、児童が物事を多面的・多角的に考えることができるような発問の工夫、十分に自己を見つめることができるような授業展開の工夫を行う必要がある。
- ・児童が自己を開示したり受容したりできるようにするために、児童の発言を受け止め、実態を把握しながら授業を行う必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- ・主体的な学びへとつなげるために、児童が問題意識をもって授業を行うことができるような導入の工夫をする。(タブレットの活用方法：事前にアンケートをとり、その結果から本時の学習への問題意識を高めさせる など)
- ・物事を多面的・多角的に考えることができるよう中心発問を吟味し、教師が児童の考えを整理したり問い返したりしながら考えを広げるようにする。(タブレットの活用方法：児童が自分の考えを書き込み、全体で交流をさせる など)
- ・十分に自己を見つめることができるよう、ノートやワークシートを活用し、振り返りの時間を確保する。その後、考えを全体で共有し、児童の考えを広げたり深めたりできるようにする。
- ・授業の中で「待つ・聞く・受け止める」という姿勢を意識し、児童の発言を受け止める。